

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区六本木 6-5-27
園名	リトルパルズ保育園六本木

1 活動のテーマ

<テーマ>

表現(言葉・ジェスチャー)

<テーマの設定理由>

当園は園の立地もあり「異文化」に対して興味関心が高い子どもたちが多く在籍します。開園当初より英語の歌を流す、絵本の読み聞かせを行うなど自然な形で日常的に英語に親しむ環境を整えてきました。日常保育の中では、子どもたちが自然と絵本に出てくる「Bye bye good night」と言いながらねんねの真似をするなど、自然な形で言葉を楽しむ姿がみられます。子どもたちの興味をさらに広げて、外国人の先生との簡単なやり取りや発達に合わせたあそびを通じて、言語の感覚だけでなく表現する楽しさを味わい、自己肯定感を高めてほしいと考えて、今年度のテーマを「表現」としました。

2 活動スケジュール

4月～翌3月

日常保育の中で英語を使った表現を楽しむ活動を開始。

さらに、交流の場として、オンラインでの外国人講師とのやりとりを開始。

5月:動物の名前を英語で言ってみたり、鳴き声を真似してみたりする

7月:「どうぞ/For you」の表現を楽しむ。保育者とのやりとりなども取り入れる

9月:「のりもの」をテーマに様々な乗り物を見たり、玩具で遊んだり、その名前を英語や日本語で言ってみたりする

11月:「おやすみなさい/Good night」の表現を楽しんだり、星空をイメージしたキラキラしたものを作ったりして遊ぶ

12月:乗り物を英語で言ってみたり、乗り物の玩具や絵本を使ったりして楽しむ

2月:「いないいないばあ」の表現を楽しむ

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

環境設定

子どもたちが興味のあるテーマと外国人講師とのレッスンの内容をリンクさせながら

遊びと言葉の表現を楽しめるような設定をしました。

準備物や素材

- ・ プロジェクター・スピーカー・PC・ウィズブックイングリッシュオンラインの資料
- ・ 外国人講師・乗り物の玩具や絵本・消防署訪問・星に関する絵本写真・クレヨン

4 探究活動の実践

<活動の内容>

5月 色々な動物が出てくる絵本を保育で読みながら、動物に親しむ。英語レッスンでは「Looking For mammy」に出てきた動物を英語で言ってみる。鳴き声の日本語との違いも楽しみ、声に出して言ってみる

7月 誕生日の友だちに「どうぞ/For you」と言いながらプレゼントを渡す、保護者の方へ作った作品と一緒に「For you/どうぞ」と言って渡した。外国人講師に対してもみんなで描いた絵をプレゼントすることになり、レッスンで「For you」と伝えて気持ちを表す体験へと広げた

9月 戸外活動の際に見える乗り物や、絵本の中に出てくる乗り物を見つけながら、その車の名前や走る様子を表現して楽しんだ。実際に消防署を訪問し、消防車を見せてもらいその大きさを感じたりした。

11月 ホログラム折り紙で星を製作し、教室に飾って夜の空間を演出した。語水前には「おやすみなさい」「Good night」と言いながら電気を消す体験を行い、生活と英語をつなげた。

12月 乗り物が大好きな子どもたちと実際に玩具を使って「のりものでいろいろなところで行ってみよう！」と言って遊んだ

2月 お面を製作し、「いないいないばあ」「Peak a boo」のやり取りを外国人講師と楽しんだ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

「どうぶつ」をテーマにしているときは、「ぼく犬飼ってるよ～」と言ったり、鳴き声を伝えたりしていた。英語の時間に保育者に日本でよく使う犬の鳴き声を伝えようということになり、「ワンワン」「にゃーにゃー」と言った際、それを保育者たちが受け止めると「伝えられた！」と満足げな表情が見られた。また英語の時間の絵本で動物たちに「Hello！」と声をかけるシーンがたくさんあり、戸外活動時にはすれ違った犬に声をかける姿もみられた。

「どうぞ/For you ってしたいものはなあに？」と聞くと、「いちご！みかん！」と食べ物が続いた後で「電車！Aくんは電車が好きだよ」と友だちの好きな物を考えて答える子どもがいた。For you の言葉を聞きなれてくると、様々な場面で For you と言って渡す仕草をしていた。外国人講師にプレゼントを見せたときに嬉しそうにどうぞと手を伸ばして「For you」と言われると笑顔で保育者の膝に戻ってくる姿があった。

「Good night」の音が気に入って皆何度も繰り返して言っていた。小さい子の教室に行くと「Good night」をいう時は小さな声で優しく言う姿があり、相手に合わせていっている様子があった。

乗り物遊びでは「ガタンゴトン(Choo choo)」「しゅっぱーつ！(Lets go!)」「ウーウー、カンカン！Woo woo」と言って遊ぶ様子や英語の時間にでてくる「いってらっしゃい(Good luck)」をまねして行っている様子があった。散歩の場面では救急車が通ると、保育者は「ピーポーきたね」といったが、「Woo woo」を使う子もいて表現の違いを楽しんだ。また保育者も「出発！」って英語でなんて言うんだろう？など日常の表現に興味を持って調べ、「Lets go」を散歩のときに使った。

「いないいないばあで怖い顔をしたい」という声から、お面を製作した。「怖いと〇〇先生泣いちゃうかもしれない」と言って笑った顔を作る子もいた。実際に外国人講師お面を見せて、「Peek a boo」をすると、保育者のびっくりした顔に子どもたちは喜んでいた。

5 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは英語を日本語とは別の言葉だということは認識していそうだが、聞いたことを自然にまねしている様子があった。「どうぞ」という時に「For you」という言葉や手を前に出すジェスチャーも同じ仲間だと思っていて、いろいろな表現の方法があることを自然に受け入れているように感じた。またきらきら星など日本語で知っている曲が英語で流れると知っているけれど少し違いを感じるようだった。同じ曲でも言語の違いで新しい表現を知る機会につながるのだと改めて感じた。

寝ている子がいると自然と小さな声にしたりすると「Good night」の言葉から相手を思って伝えることにもつながったと感じた。

どんなことをすると楽しいか自分たちで考えてお面を製作し、怖い顔をする子もいれば笑った顔にする子もいて、いろんな表現があることを知っていくことができたと感じる

子どもたちは外国人講師へ愛着を持ち、こんなことがしたいと先生に言う！と気持ちを表すようになった。日々のテーマを持った活動と保育者との時間へのつながりができていくにつれて、英語を耳にしたり口にしたりする時間ができ、表現の幅が広がっていくように感じた。



